



所信声明 気候変動の影響 Impact of climate change

背景

気候変動の発生が明白であり、気象パターンも著しく変化していることは、十分かつ強力なエビデンスに裏付けられている。気候変動の脅威は地球上の生命体にとって深刻な脅威である。その影響は今後深刻化すると予想されている。

地球規模での気候変動に起因する人の健康への環境的脅威は大規模であり、多様である。異常気象現象、自然災害、住民の避難、伝染病発生の増加、食料・飲料水の不足などがある。

すべての医療従事者は中心的存在として問題を理解し、人の健康への脅威を最小化するために気候変動への対策をとることが求められる。助産師も、持続可能性に関連した社会的変化に影響を与える重要な役割を果たしうる立場にある。

見解

予想される気候変動の影響の多くは、女性と乳幼児、家族だけでなく助産師自身にも深刻な結果をもたらしうる。したがって、専門職としての助産師にとっては、気候変動の脅威の重大性を認識し、気候変動に関係する地域および世界の環境問題の管理に貢献する方法を見つけることが重要である。

会員協会への指針

ICM は会員協会に以下を求める。

- 地球の気候変動が発生しており、その重大な原因が人の行動であるという科学的合意を認識すること
- 気候変動による出産にかかわるコミュニティに対する健康面での影響を助産教育と能力開発に取り入れること
- 国・地方・世界のレベルで気候変動の政策立案に助産師の意見を反映させる重要性を認識し、可能な限り、意見の表明を目指すこと
- 気候変動による健康への世界的影響を予想し、出産にかかわるコミュニティ内でより効率的に対応できるよう、政府機関に対して保健インフラの強化を求めること

- 助産師が環境の持続可能性を推進するための役割モデルとして行動し、持続可能な実践について女性と家族を教育する積極的な役割を果たすよう促すこと
- 助産実践と出産にかかわるコミュニティに対する気候変動の影響の双方に関連して、気候変動の議論にさらなる情報を提供するために研究を実施すること

その他の関連文書

Davies L, Daellenbach R, Kensington M (2011) Sustainability, Midwifery and Birth. London Routledge

Costello A, Abbas M, Allen A, et al. Managing the health effects of climate change. Lancet 2009; 373: 1693–733.

Hope P et al. (2012) Creating Sustainable Health and Care Systems in Ageing Societies Report of the Ageing Societies Working Group 2012 Global Health Policy Summit

Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) (2010) Understanding Climate Change: 22 years of IPCC assessment".

http://www.ipcc.ch/pdf/press/ipcc_leaflets_2010/ipcc-brochure_understanding.pdf

November 2010. Accessed December 2013

McMichael AJ. (2013) Globalization, Climate change and Human Health. N Engl J Med 2013;368:1335-43.

2014年、プラハ国際評議会にて採択

次回の見直し予定：2020年

2016年 公益社団法人日本看護協会、公益社団法人日本助産師会、一般社団法人日本助産学会 訳

ICM発行文書の原文については、ICMが著作権を有します。

日本のICM加盟団体である日本看護協会・日本助産師会・日本助産学会は、ICMの許諾を得て日本語に翻訳しました。

日本語訳の著作権については、原文作成者であるICMと日本看護協会・日本助産師会・日本助産学会に帰属します。

原文の転載引用については、ICMに連絡し使用許諾を得てください。

日本語訳の転載引用については、日本助産師会<http://www.midwife.or.jp/>に連絡し使用許諾を得てください。